

モーツァルト生誕250年記念

京都オペラ協会 定期公演

# フィガロの結婚

原語・日本語字幕付



「馬鹿げた一日」

という副題もつくフィガロの結婚

当時は政府により上演禁止にまでなった

オペラの傑作を上演!

1789年の初演より200年以上たった今も世界中で

最も親しまれているオペラです。

あなたのオペラのイメージ変わります!

# フィガロの結婚

モーツァルト作曲  
「フィガロの結婚」  
全4幕(原語)

主催: 京都オペラ協会  
後援: 京都府、京都市、京都商工会議所  
総監督・演出: ミッシェル・ワッセルマン  
指揮: 牧村 邦彦  
オーケストラ: 京都フィルハーモニー室内合奏団

## ■会場・日時

2006年5月27日 [土] 16:30開場 17:00開演  
京都芸術劇場 春秋座(京都造形芸術大学内)  
京都市左京区北白川瓜生山2-116

## ■入場料

[一般] 前売: 5,000円 当日: 5,500円 (全席自由)  
[学生] 前売: 2,000円 当日: 2,500円 (全席自由)

## ■チケットのお求め

・京都芸術劇場チケットセンター Tel. (075)-791-8240 (平日10:00~17:00)  
・京都オペラ協会事務局 Tel. (075)-414-9204 (平日10:00~17:00)  
(京都ブライtonホテル企画部)  
・エラート音楽事務所 Tel. (075)-751-0617



助成: 財団法人 ロームミュージックファンデーション

## 出演者紹介



### アルマヴィーヴァ伯爵: 大谷 圭介

京都教育大学教育学部数学科卒業。京都市立芸術大学大学院修了。第39回なにわ芸術祭新人賞、第7回高槻音楽コンクール第1位、第18回摂津音楽祭奨励賞をいずれも受賞。オペラでは「フィガロの結婚」「魔笛」「コシ・ファン・トゥッテ」他出演。演奏会では、ベートーベン「第九」を始め宗教曲のバリトン・ソロや京都オペラ協会オペラ・ガラ・コンサート、京都フライングホテル・リレー音楽祭等に出演。声楽を響場知昭、蔵田裕行、田中勉、G.Tadeoの各氏に師事。現在、関西二期会会員、島本混声合唱団指揮者、京都混声合唱団ヴォイス・トレーナー、「MBS一万人の第九」指導者、男声合唱団Des Eleisons指揮者。



### アルマヴィーヴァ伯爵夫人: 長谷川 泉

京都教育大学音楽科卒業。京都市立芸術大学大学院声楽専攻を首席で修了。大学在学中、音楽科特別公演「ラ・ボエーム」にミミに抜擢されオペラデビュー。99～2000年ミュンヘン・ミラノ、02年再度ミラノに留学。「第9」ヴェルディ「レクイエム」ブラームス「ドイツレクイエム」など宗教曲のソリストや各種コンサートでも幅広く活躍し、04年演連コンサート大阪「長谷川泉ソプラノリサイタル」では絶賛された。03年京都オペラ協会「フィガロの結婚」伯爵夫人、04年「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラ、05年「コシ・ファン・トゥッテ」フィオルデリージで好評を博した。京都教育大学、京都女子大学非常勤講師。日本演連連盟会員。



### フィガロ: 藤山 仁志

京都教育大学大学院修了。響場知昭氏に師事。第22回飯塚新人音楽コンクール入選。第34回イタリア声楽コンクールソ・フィナリスト。オペラ公演においては「フィガロの結婚」(フィガロ)、「ドン・ジョヴァンニ」(タイトルロール)、「コジ・ファン・トゥッテ」(グリエルモ)、「愛の妙薬」(ペルコーレ)、「椿姫」(ジェルモン)、「トスカ」(スカルピア)、「ボエーム」(マルチエロ)などに出演。また「きらら浜-第九 演奏会」、「萩-第九 演奏会」(ルーマニア国立放送室内管弦楽団)においてバス・ソリストをつとめる。コンサートでは「京都オペラ協会10周年記念 オペラ・ガラ・コンサート」、愛知県芸術劇場コンサートホール「オペラ・フォーエヴァー」、第14回「ABCフレッシュコンサート」(現田茂夫指揮、大阪フィルハーモニー交響楽団)等に出演している。二期会会員。(東京)



### スザンナ: 稲森 慈恵

京都教育大学卒業。京都市立芸術大学大学院修了。京都オペラ協会「椿姫」ヴィオレッタ、「コシ・ファン・トゥッテ」のデスピーナ、「フィガロの結婚」スザンナ、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ役で出演。びわ湖ホール「マルク」レディハリエット、「ジプシー男爵」アルゼーナ、新潟オペラ「てかがみ」カヨ、コレギウムジクム、川西市市民オペラ「愛の妙薬」アディーナ役で出演。イタリアにてM・アダーニ女史、S・レガッチ女史に師事。響場知昭、常森寿子の各氏に師事。



### ケルビーノ: 梶浦 知甫

滋賀県立石山高校音楽科を経て、同志社女子大学学芸学部演奏専攻声楽コースを卒業。同大学の音楽学会「頌啓会」特別専修生修了。大学在学中に、音楽学科オペラクラス公演「フィガロの結婚」で伯爵夫人(2幕幕開け・4幕)を演じる。'05 4月に大学推薦卒業生新人演奏会に出演。10月には京都オペラ協会公演「フィガロの結婚」ケルビーノ役でオペラデビューを果たした。これまでに吉田真理子、渡辺文子、川島幸子の各氏、現在は響場知昭氏に師事。



### バルトロ: 片桐 直樹

京都教育大学音楽科卒業。東京芸術大学大学院オペラ科修了。第22回藤堂音楽賞受賞。1988年、関西二期会オペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」のレボレロ役としてデビューし、歌唱、演技ともに高い評価を得る。その後関西二期会を中心に「愛の妙薬」「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」「ラインの黄金」「パルジファル」「セヴィリアの理髪師」「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「カルメン」「サンドリオン」「ランメルモールのルチア」「ドン・カルロ」「ばらの騎士」「椿姫」「メリー・ウイダー」「こもり」「カヴァレリア・ルスティカーナ」など、数々のオペラに出演し、いずれも好評を博す。特に存在感のある演技力による多彩な役作りには定評がある。関西二期会、京都音楽家クラブ会員。相愛大学非常勤講師。



### マルチエリーナ: 小見 佳子

東京芸術大学卒業、同大学院修了。1975年文化放送音楽賞受賞。1976年東京オペラプロデュースの「オリバー伯爵」(ロッシーニ)のイブリエロでデビュー。続いて二期会の「フィガロの結婚」(モーツァルト)のケルビーノに抜擢され好演。NHKニュー・イヤー・コンサートに出演、1978年オペラ研究所を修了。同年10月より文化庁派遣在外研究員としてミュンヘンに留学し、H・テッパ、E・ヴェルバ両氏に師事し、1979年に帰国。「ヘンゼルとグレーテル」(ファンパーディング)のヘンゼル、「オルフェオ」(グルック)、「シンデレラ」(ロッシーニ)のタイトルロールを演ずる他コンサートでは、モーツァルトの「レクイエム」、ベートーヴェンの「ミサ・ソレムニス」【第九】、バッハ「口調短ミサ」【マタイ受難曲】「クリスマス・オラトリオ」、ヘンデル「メサイア」などを歌っている。如中良輔、長野羊奈子、中村浩子の各氏に師事。二期会会員。



### アントニオ: 服部 英生

京都教育大学卒業。在学中より「フィガロの結婚」のフィガロ、バルトロ、アントニオ、「コシ・ファン・トゥッテ」のグリエルモ、ドン・アルフォンゾ、「ラ・ボエーム」のアルチンドロ、ペナ、「こもり」のファルケ、「ジプシー男爵」のシュパンなど多数のオペラに出演。オペラ以外では「第9」、フォーレ「レクイエム」、「メサイア」等のソロを務める他、学校公演や各種イベント、コンサートへの出演も意欲的に行っている。近年は合唱指導などの活動にも力を注いでいる。本年7月には、びわ湖の夏・オペラビエンナーレ「ミニヨン」(びわ湖ホール)、10月には愛知県芸術会館にて「ラ・ボエーム」に出演予定。現在、関西二期会会員。京都市少年合唱団指導者。



### ドン・バジリオ／ドン・クルツィオ: 越野 保宏

京都教育大学卒業。第35期関西二期会オペラスタジオ修了。修了オペラ「ボッペアの戴冠」に皇帝ネローネ役で出演。オペラには「魔笛」、「コシ・ファン・トゥッテ」、「椿姫」等出演。京都オペラ協会公演には「フィガロの結婚」バジリオ、クルツィオ、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオに出演している。また「メサイア」、「レクイエム」等の宗教曲や「第九」の他、多くの演奏会に出演している。響場知昭、喜多村彪の各氏に師事。現在、関西二期会準会員。



### バルバリーナ: 木澤 香俣

大阪教育大学芸術専攻音楽コース卒業。同大学院修了。2000年度フランス音楽コンクール声楽部門第1位、およびフランス大使賞、朝日放送賞、2003年第7回松方ホール音楽賞選考委員奨励賞受賞。第34回関西新人演奏会、フランス歌曲研究会主催演奏会等に出演の他、ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」等のソリストを務める。2003年、04年、05年にリサイタルを開催。第11回、13回京都フランス音楽アカデミーにてアンヌ＝マリー・ロッド女史のクラスを受講。2004年、05年E・アメリカンとJ・デムスによる公開講座、2005年演出家A・ガリシヨのマスタークラス受講。これまでに森榮子、河瀬柳史、淵脇和範、E・セリグ、R・ハニーサッカーの各氏に師事。フランス歌曲研究会会員。

### 指揮: 牧村 邦彦

大阪芸術大学演奏学科卒業後、ウィーン国立音楽大学指揮科において、O・スウィットナー氏のもとで学び、同時にバーデン市立劇場で研鑽を積む。大阪シンフォニカー交響楽団指揮者(91～04)として活躍する他、関西の主要オーケストラと長年にわたって共演。近年では、札幌響、九州響、広島響、セントラル愛知響、大阪センチュリー響、2001年にはグルジア国立アジャラ響を指揮するなど活動の場を広げている。一方その活動の中心はオペラの指揮にあり、大阪音楽大学カレッジオペラハウス専任合唱指揮者(94～99)として、スタンダードな作品から、黛 敏郎の「金閣寺」やクルト・ワイルの「三文オペラ」など多数のオペラ公演をサポートする。現在60本に近づくレパートリーを持ち、豊富なオペラ経験を活かして活動を続けており、02年度には、日本国内で6作品20公演を指揮、最もオペラ指揮活動の多い指揮者として「日本のオペラ年鑑2002」(日本オペラ団体連盟発行)に記録され、その後も毎年6公演以上のオペラ公演に携わっている。また94年には米国のソルグ、ホワイトウォーター両オペラにも客演。大阪シンフォニカー交響楽団定期演奏会での「蝶々夫人」ミラノ初演版を基にした、本人オリジナル改訂版公演が、00年度の大阪文化祭賞本賞を受賞。邦人のオペラ作品の初演、再演も手がけ、池辺晋一郎氏作品「てかがみ」は新潟県内で3年間に渡り再演され、その公演は第1回佐川吉男音楽奨励賞を受賞。新国立劇場や北海道二期会、関西歌劇団では、海外からの本番指揮者の音楽作りをサポートする、重要なポジションを担っている。その他、自身の企画・構成・お話による「オペラレクチャー」も全国各地で催され、好評を得ている。